

実践研究（2019～2021）報告書（概要版）

～地域スポーツ運営組織「スポネットかくた」の取組み～

2022.7

～スポネットかくだの説明～ 設立経緯 及び 趣旨

■ 次を背景に「スポーツによるまちづくり」を行うため新組織を設立

- 1 スポーツへの期待の高まり
 国：第2期スポーツ基本計画
 市：スポーツ施設に隣接して道の駅建設開始
- 2 少子高齢化で地域スポーツの現状維持が困難に
- 3 笹川スポーツ財団が
 地域スポーツを推進する新組織を提言



協定締結	2019.4.	角田市・市教委・笹川スポーツ財団 で協定締結
↓		
検討	2019.4～8	スポーツ関連団体で検討
↓		
設置	2019.9	スポネットかくだ 設立

で初めて、市内で20日に設立会があり、活動計画などを決めた。市の総合体育施設「かくだスポーツヒルズ」の隣接地に道の駅がある利点を生かし、西施設を健康づくりの拠点とする方針。組織内に専門チームを設け、具体案を練る。

大友喜助市長は「充実したスポーツ環境を十分に活用してほしい」と期待を寄せた。

市と市教委、財団などは4月、スポーツを通じた地域活性化の実践研究を進める連携協定を結び、角田版RSMOの設置に向け関係機関で協議を重ねてきた。

～スポネットかくだの説明～

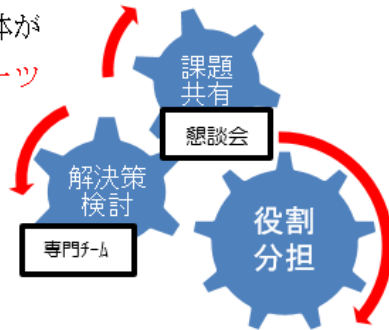
将来ビジョン等の概要

1 活動内容

市体育協会、スポ少、仙台大学など9団体が集まり、団体間の連絡調整を行い地域スポーツにおける課題の解決を図る。

＜連絡調整の順序＞

- ① 課題の共有
- ② 解決策の検討
- ③ 役割分担



3 名称

スポーツネットワークかくだ

連絡調整する組織を名称にも反映

成功のポイントとなる「組織と組織」「人と人」とのつながりを強調

今から未来につなぐ（子どもの未来）も連想

2 目的

心身の健康増進、生きがい満ちた生き方

スポーツで、明るく楽しく健康で活力あふれたまちづくり

体を動かすという人間の本来的な欲求に応える（精神的充足）

社会の課題解決に貢献（健康長寿社会（医療費削減）、共生社会、地域経済活性化等）

目的をサブタイトル化

4 ビジョン(将来像)

コパ* 外な表現に

元気を つなごう

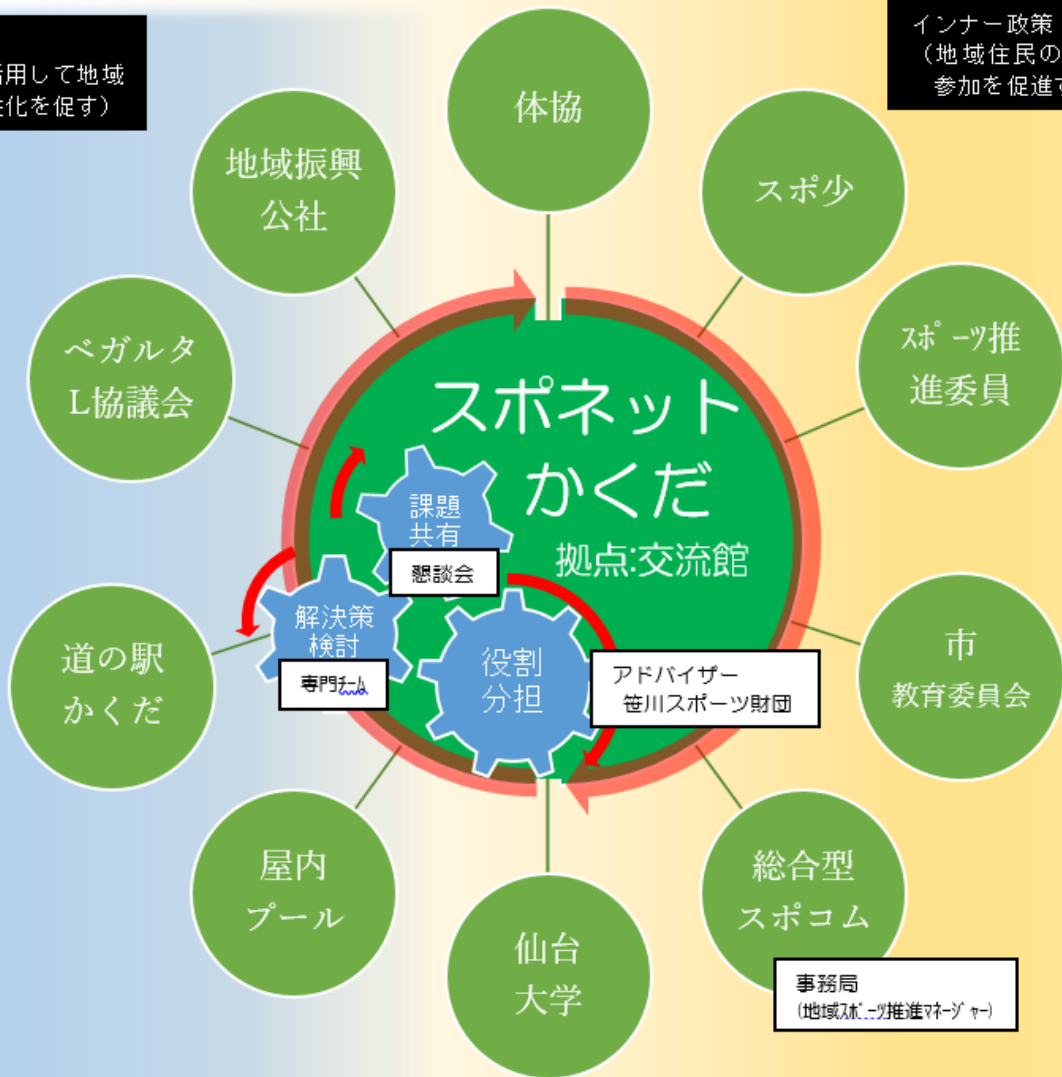
～スポーツで明るく楽しく活力あるまちを目指して～



～スポネットかくだの説明～ 構成団体 2022.1 時点

アウター政策
(スポーツを活用して地域
や経済の活性化を促す)

インナー政策
(地域住民のスポーツ
参加を促進する)



【スポーツネットワークかくだ 構成団体】

No	所属	所属の役職	氏名	備考
1	角田市スポーツ協会	会長	草間 進	副会長
2	角田市スポーツ少年団本部	本部長	只野 良子	
3	特定非営利法人スポーツコミュニケーションかくだ	副会長	猪狩 和浩	
4	公益財団法人角田市地域振興公社	事務局次長	遠藤 明	
5	(株)フクシ・エンタープライズ (屋内温水プール指定管理者)	課長代理	石垣 寿大	
6	角田市スポーツ推進委員協議会	会長	玉手 喜隆	副会長
7	ベガルタ仙台レディース角田ホームゲーム協議会	事務局長	八島 利美	会長
8	株式会社まちづくり角田 (道の駅かくだ指定管理者)	駅長	藤野 浩	2022.1.1～
9	仙台大学	准教授	弓田恵里香	

【支援・実践アドバイザー】

所属	役職	氏名	備考
笹川スポーツ財団	政策ディレクター	吉田 智彦	
笹川スポーツ財団	政策オフィサー	鈴木 貴大	

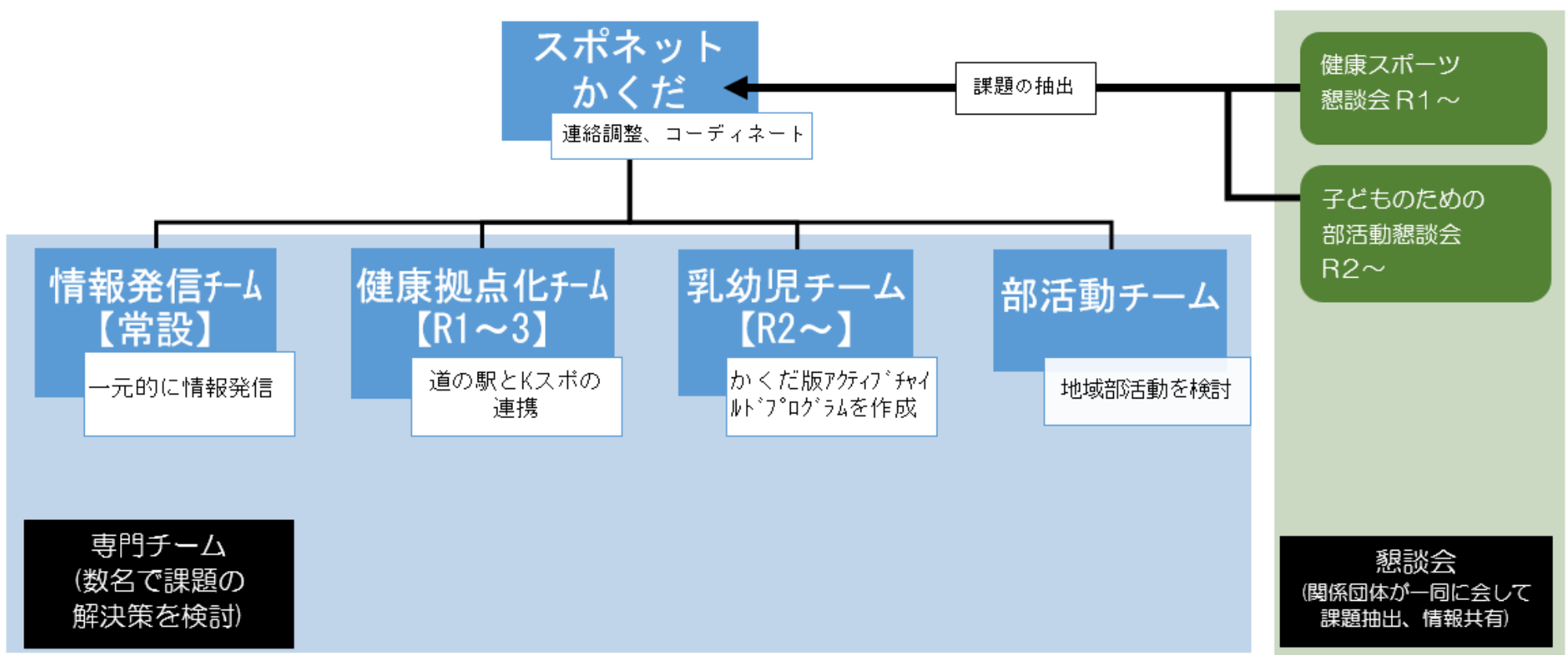
【事務局職員】

所属	役職	氏名	備考
特定非営利法人スポーツコミュニケーションかくだ	クラブマネージャー	遠藤 良則	地域スポーツ推進マネージャー
	アシスタントマネージャー	安達 昌子	
生涯学習課	課長	堀米 直江	
	課長補佐	横倉 博子	
	スポーツ振興係長	国井 康士	
	主任専門員	笠松 直人	

～スポネットかくだの説明～

組織体系

- 課題把握、情報共有のため関係団体を一同に会する懇談会を開催
- 課題解決のために専門チームを設置



～ 3年間の取組み（インナー事業）～ 課題の整理・分析

課題の抽出2019

健康スポーツ懇談会 2回開催
 ライフスタイルに応じてさまざまな課題があることを改めて確認

課題の整理2020

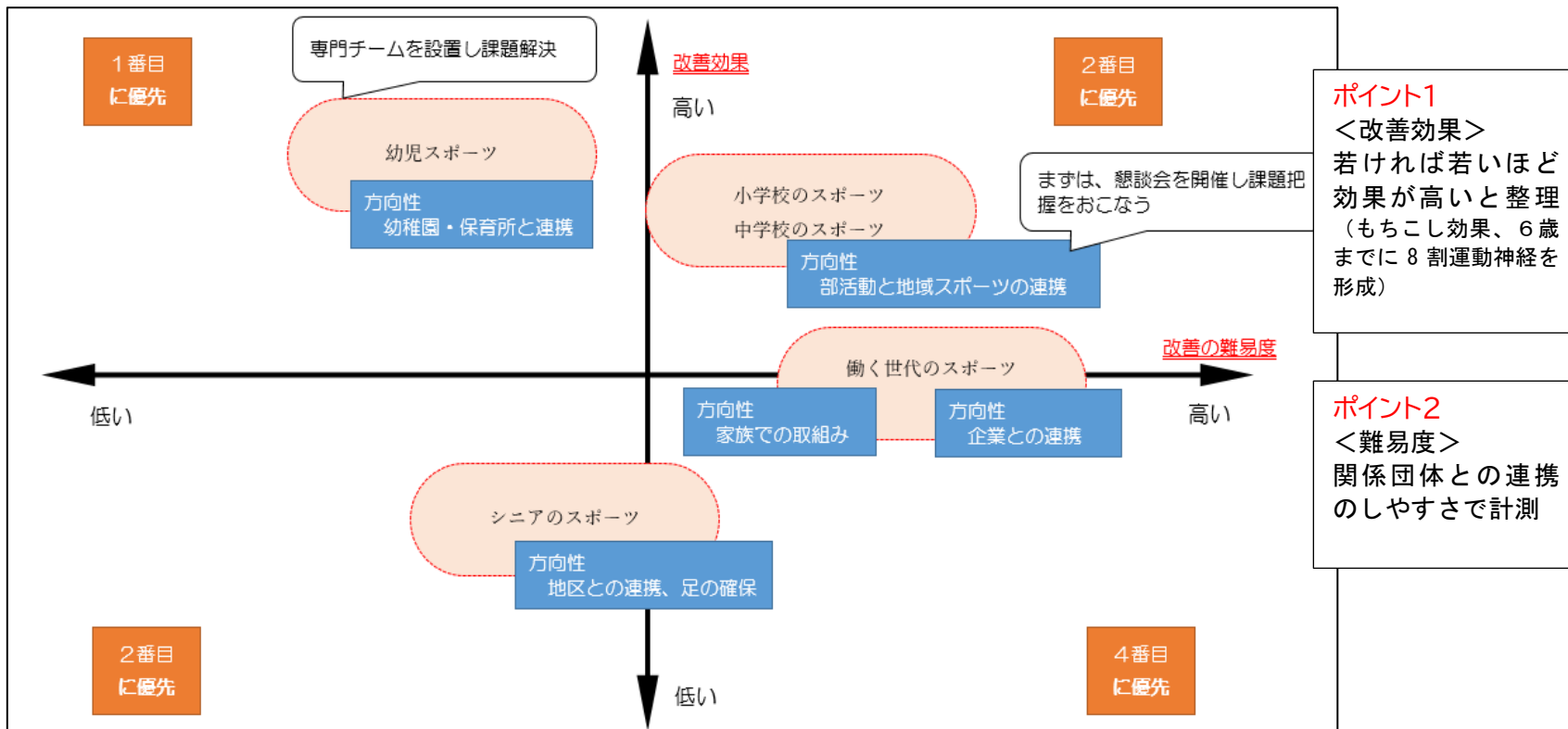
次により課題を整理

- スポーツ事業を2つに区分
 - ・ インナー事業（市民のスポーツ）
 - ・ アウター事業（交流人口拡大）

■ 何を優先するかの基準を設定
**スポーツを楽しむ人を
 どれだけ ふやせるか？**

- 議論の視点の設定
 - ・ 5～10年の中長期スパン

インナー事業の
 課題の分析
 2020



～ 3年間の取組み（インナー事業）～ 第1優先取組み 乳幼児のスポーツ振興

健康スポーツ懇談会
2回

乳幼児チームで
検討

かくだ版アクティブチャ
イルドプログラムの展開

懇談会で課題を明確化

<主な課題>

・ 幼児期にすでに2極化
(運動しない子、苦手な子がいる)

・ 子どもが運動を好きになるには、
丁寧なアプローチが必要

- ・ すべての乳幼児に効率よくア
プローチするため次に着目
- 1 乳幼児健診の待ち時間
- 2 保育所、幼稚園の日頃の保育
- 3 角田児童センターと連携

2020 笹川スポーツ財団との連
携でスポーツ庁のモデル事
業として実施
2021～ 通年事業として実施

<かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラムの概要>

★ かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラムとは? ★

すべての乳幼児に「楽しみながら積極的に体を動かす『運動あそび』を提供する
角田市独自の継続的な取組み」の総称です。

★ 具体的な取組みは? ★

概要イメージ

かくだ版 アクティブ・チャイルド・プログラム

赤ちゃん

楽しい
運動あそびを提供

- 取組み・1 乳幼児健診
- 取組み・2 角田児童センター等
- 取組み・3 保育所・幼稚園等

元気な
子ども

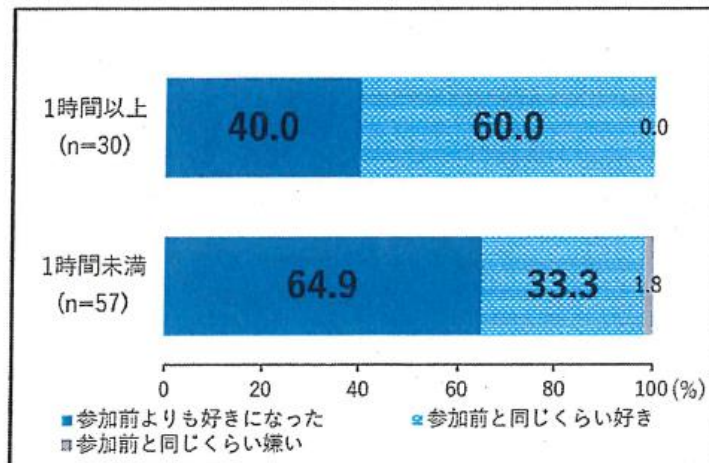
豊かな
人生



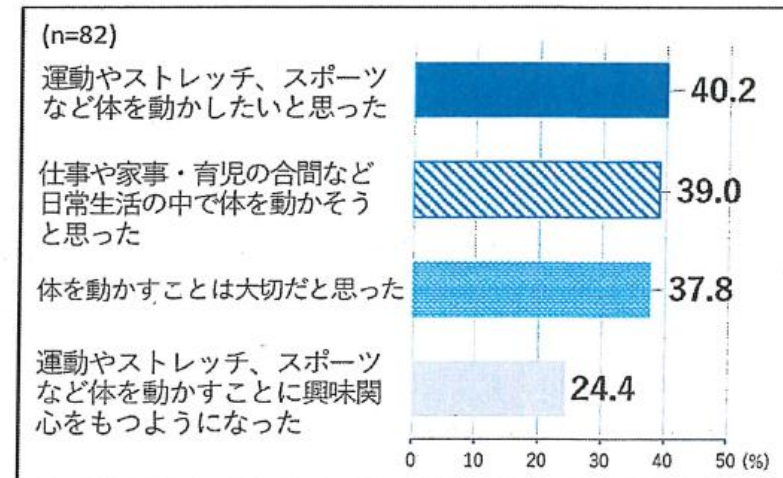
アンケートによる分析

ターゲット	課題（仮説）	検証結果
未就学児	・運動をしない子、苦手な子が多く小学校以前の幼児期に二極化	講座実施により意欲の向上や気持ちの変化がみられた
保育者等	・運動が苦手な子には丁寧な指導と楽しみのある内容が必要	現場での研修の継続が丁寧な指導や楽しみのある内容提供に効果的
保護者	・スポーツに親しむ家庭環境の醸成が必要 ・日常の遊びにおける身体を動かす機会の減少、保護者が過度に怪我を恐れる風潮	子どもと一緒に遊ぶことへの重要性の認識や一緒に遊ぶ機会の提供は家庭での運動あそび実施や保護者自身の意識・行動の変容に一定の効果が確認された

図表1 保育現場での出前講座後の子どもの気持ちの変化
(普段の運動実施時間で比較)



図表2 乳幼児健診後の保護者の変化(上位4項目)



～ 3年間の取組み（インナー事業）～ 第2優先取組み 部活動のあり方検討

子どものためも部活動
懇談会 2回



部活動チームで
検討 令和3年度～



令和5年度から
段階的に実施

懇談会で課題を明確化

課題

- ・ 少子化で部活動の維持が困難
（今後10年で生徒が32%減）
- ・ 教員の本来業務の増加
- ・ 種目経験のない教員が対応
- ・ 部活に対する想いがいろいろ
（保護者、生徒、教員）

チームで解決策を検討

- 令和3年度 1回開催
- 令和4年度 数回開催予定

部活動に対する想いがさまざまのため、ま
ず目線合わせをする必要がある。

そのため、

- ・ 部活動についての周知チラシ
- ・ アンケート
の内容もチームで検討予定

～ 3年間の取組み（アウター事業）～ 課題の整理・分析及び解決策

現状把握

課題の分析

解決策

< 競技を特定しない取組み >

① ChallengeMillion 市民会議

(Kスポと道の駅との連携で健康、子育て、賑わいの拠点化に取り組む関係機関で構成する組織)

< 競技別の取組み >

② ベガルタ L 仙台ホームゲーム協議会

③ 全日本女子車いすバスケット支援する会

④ リバーサイドマラソン実行委員会

< 課題 >

・ 次の団体がいずれも変革期

① ChallengeMillion 市民会議

→ 地方創生事業の最終年

② ベガルタ L 仙台

→ プロ化で角田での公式戦不可

③ 車いすバスケット

→ 東京 2020 パラ終了

・ 各組織の事務局が 1 カ所ではないためノウハウの共有や蓄積がしにくい

・ アウター事業全体をみて、どう取り組むべきか考える必要がある。

2022. 3

①、②、③を発展的に解散

↓

↓

2022. 4～

スポネットが当該事業を継承し
アウター事業をコーディネート
(指標：経済的効果・社会的効果)

↓

↓

2022. 6～

スポネット内に専門性の高い「車いすバスケット」については専門チームを設け
今後の取組みを検討

～次のステップのために～ より持続可能な組織体制へ

スポネットの活動を改めて分析



今後の方向性



2022. 4～

■ スポネットの取組み（幼児スポーツ、部活動の見直し、道の駅との連携など）はいずれも行政課題に沿った取組み（公共性が高い）

■ 今後さらにアウトター事業を行うにあたって

- ・ 収益性の確保
- ・ スポーツそのものに精通した人材
- ・ 関係団体とのネットワークが必要

- ・ 事務局は行政よりスポーツ関係団体が担うのが効率的
- ・ 事務局運営に必要な経費は、取組みの公共性の高さから、角田市が負担するのが望ましい

- ・ 中長期的なスパンでの取組みのため単年度の補助金ではないほうがよい
- ・ スポーツ施設管理と密接な取組み



スポネットの事務局を
指定管理業務として整理

2022. 4～

スポネットの事務局を
Kスポ指定管理者へシフトし
持続可能な体制を目指す

～次のステップのために～ 市・教育委員会における位置づけの明確化

スポネットの活動を改めて分析



行政として
位置づけの明確化



2022. 4～
の効果

■ スポネットの取組み（幼児スポーツ、部活動の見直し、道の駅との連携など）はいずれも行政課題に沿った取組み

（公共性が高い）

■ さらに展開していくためには、行政の理解が不可欠で、行政全体としてスポーツの役割や位置づけについて共通の認識を有していることが重要

次の2計画へスポネットの取組みを位置づけ

■ 角田市

・ 第6次長期総合計画(R4～R13)

※ 「スポーツによるまちづくり」を重点施策に位置付け

■ 市教委

・ 角田市教育振興計画(R4～R13)

2022. 4～

■ 行政全体としてスポーツの役割や位置づけを共有

■ 中長期スパンで各事業の継続性確保し今後の広がり期待

■ 「スポーツによるまちづくり」の各種事業に企業版ふるさと納税の活用が可能

※ 第6次長期総合計画は地方総合戦略を併せ持った計画のため、重点施策へ企業版ふるさと納税の活用が可能)

6. スポーツによるまちづくり

第6次長期総合計画の
重点施策より抜粋

スポーツにより明るく楽しく健康で活力あるまち（アクティブシティ※かくだ）の実現を目指すため、スポネットかくだの活動を支援することでKスポを拠点とした「する・みる・ささえるスポーツ」を推進するとともに、散歩、清掃、家事などの「日常における身体活動」も推進することで、スポーツの振興に加え、スポーツによる地域課題の解決（元気な子どもの育成、健康増進・医療費削減、地域コミュニティの活性化、関係人口の拡大等）を図ります。

3年間の取組みを分析

評価の基本的な考え方を整理



数値で客観的に分析

「スポネットかくだ」の評価は、将来ビジョン「明るく楽しく健康で活力あるまちづくり」がいかにか実現したかで判断すべき。

しかしながら

- ・活動がまだ3年目
- ・スポネットは中長期視点での取組み

そのため

どの程度、連携がとれるようになったか!

を基準とし評価を行う

どの程度、連携が取れるようになったか?

指標	設立前3か年	設立後3か年(2019~2021)
スポーツ団体とそれ以外の団体との打合せの回数	Challengemillion2016 6回	スポネット会議 14回 健康拠点化チーム8回(懇談会3回) 部活動チーム1回(懇談会2回) 乳幼児チーム5回 →計33回
会議への参加人数(会議へ参加した行政の所属数)	96名 (3課・まちづくり政策課、商工観光課、生涯学習課)	550名 (7課・まちづくり政策課、健康長寿課、地域包括支援センター、子育て支援課、商工観光課、教育総務課、生涯学習課)
連携事業の数(長期総合計画に記載しているもの)	1道の駅との連携	<スポーツによるまちづくり※1> 1 かくだ版アクティブチャイルドプログラム※2 2 かくだ版スポーツツーリズム※3 3 角田市チャレンジデー 4 部活動の見直し
(参考) 連携事業への参加者数	(2016~2018) 497名	上行の1(2020・2021) 2,860名 上行の2(2019~2021) 3,745名 上行の3(2021) 4,639名 →計11,244名

※1 スポーツ庁長官表彰を受賞(2021.12)

※2 スポーツ庁委託事業(モデル事業)採択(2020.9)

※3 スポーツ庁作成のスポーツコミッション一覧へ掲載(2020.10~)

3年間の評価

スポネット設立間もないこともあり、
「どの程度、連携がとれるようになったか」を基準としたが、下表のとおり**十分連携が広がっており**、さらに、その連携から生まれた事業は、スポーツ庁長官表彰を受賞するなど成果を得ている。

また、**連携事業への参加者数も大幅に増加しており**、将来ビジョン「明るく楽しく健康で活力あるまち（アクティブシティ）の実現」に向け**着実な取組みであったと評価できる**。

<評価の指標>

区分	設立前との比較
打合せの回数	5.5倍
会議への参加者数	5.7倍
連携事業数	4倍
(参考)連携事業への参加者数	11,244名



今後について ～次期計画改定との連動～

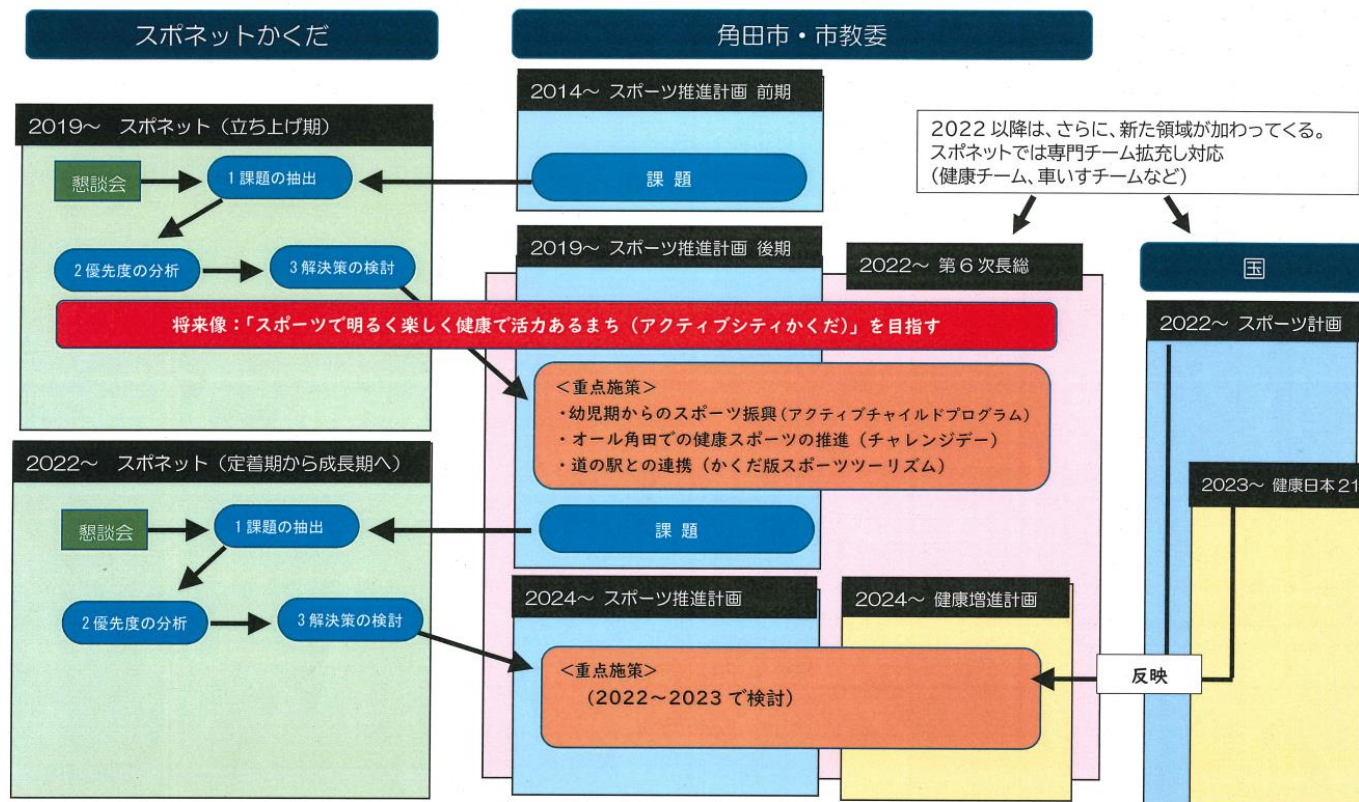
今までの3年間

市スポーツ推進計画における課題について、懇談会での声を踏まえつつ、優先度合の分析、課題の解決方法について議論。その結果、**優先する取り組みは、第6次長期総合計画に位置づけ**



今後について

2024 に市スポーツ推進計画及び健康増進計画の改定時期を迎えることから、スポネットの活動を**計画改定と連動させることで、着実に将来ビジョンの実現を目指す！！**



今後について ～専門チームの有効活用と計画改定との連動～

スポーツ庁においては、第3期スポーツ計画が策定(2022～2031)されスポーツに求められる役割・期待がさらに広がりました。

さらに、厚生労働省においては、健康日本21の改定(2023～2032)が予定されており、運動による一次予防の重要性の高まりが予想されます。

そのため、スポネットでは、**専門チームの機能を十分に活用**し、角田市における**スポーツと健康の計画改定(2024～)**と**しっかりと連動**しながら、将来ビジョンの実現を目指します。

